

にある御前清水と同じ水口であって、片方の清水を手杵でかき廻すと片方も濁るといわれた。この清水で眼を洗えば、眼病が治るといわれて、眼の悪い人の信仰がある。

滝山の清水は、村の南の方向で、上松本に通ずる道路側にあり、水量は細いが、岩肌を滝のように流れているので、その名がある。

三升蒔の清水は、境之内の前の山麓、三升蒔地内より湧き出ているので、その名がある。現在も境之内地区の一部で、飲用水に使っている。

(話者 古川明)

御前池と耳のあるウナギ 《小 中》

小中、字志茂の前の西山裾に、御前池というところがある。御前様が祀られてあり、きれいな清水が湧き出ている。また近くには沢山の小さなイズボ(湧水池)がある。

昔、そのイズボのまわりに二〇メートル四方の池を造り、水を溜めた所に手杵を浮べたところ、山蔭の南の弁天の清水に手杵が流れ出た。そしてこちらは水が出なくなってしまう。これでは困るので池の土手を切り水を減らしたら、今度は手杵が御前清水に出て来た。それで御前清水と弁天の清水は、昔から水口が同じだといわれている。

小中御前池

